



シリーズ

武雄の治水

vol.46

～水と共に生きるまちへ～

今回のテーマは

松浦川の治水

松浦川は武雄市、伊万里市、唐津市の3市を流れる1級河川です。今回は松浦川の特徴や、これまで行われてきた治水対策、現在進められている取り組みについて紹介します。



● 氾濫を許容する治水対策『アザメの瀬』

この地区は、唐津市松浦川中流部に位置し、これまで洪水被害に悩まされた地域でした。そこで、周辺の田んぼを買収し、土地を掘り下げることによって、大雨時は増水した河川の水を一時的に受け入れることができる「氾濫原」が整備されました。

この氾濫原は、単なる治水対策だけではなく、平時には湿地帯として活用され、魚類などの生息・産卵の場や、湿地性植物の良好な生息環境となっています。

● 氾濫原・・・河川の中・下流域において、洪水時にあふれた水が流入し、冠水する平坦で低い土地



▲ 普段のアザメの瀬

▲ 大雨時のアザメの瀬

● 松浦川の特徴

武雄市がその上流部に位置する松浦川は、山内町青螺山を源に山間部の狭い田園地帯を北流し、唐津市において玄界灘に注ぐ河川です。河川の全長は約47km、流域面積は446km²で、佐賀県の面積の約5分の1を占めています。

山地や丘陵地に囲まれている比較的緩やかな流れとなり、流末の玄界灘は干満差が2mで、有明海と比較すると小さいという特徴があります。また、利水として重要な河川となっており、農業用水や水道用水として、古くから活用されています。

自然環境が豊かな松浦川では多様な生物が生息しており、親水公園や河畔公園が地域に親しまれています。

● 松浦川の治水対策

これまで松浦川では、川幅を広げたり、堤防を整備するなど、さまざまな治水対策が下流部より進められたことで、治水安全度は向上してきました。

現在、武雄市域では、川の流れを良くするため、県において武内町真手野地区にある血堰の改修工事が行われています。既存の固定堰を可動堰に改修することで、大雨時には自動で堰が転倒し、川の水が流れやすくなります。

今後は、血堰より上流部においても河川改修が行われる予定となっています。

そのほかの治水対策として、河川の浚渫やため池の治水活用、田んぼダムの取り組みも進めています。



▲ 血堰の改修状況

お問合せ まちづくり部 治水対策課 ☎0954-27-7097

シリーズ武雄の治水 バックナンバーはこちらから▶

